

電子工学科		倫理社会				
学年	第2学年	担当教員名	藤本 一司			
単位数・期間	2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要	<p>・「聴く」ことは、「私」の生きる力とよこびをもたらすということを学ぶ。          ・コミュニケーションを立ち上げ、継続することの心地よさを味わう。</p>					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	<p>・教科書を読んで、自分なりに理解をしておいてください。</p>					
到達目標	<p>・他者の言い分を「排除」せずに、確かに「聴く」ことができる。          ・「笑顔」で、コミュニケーションができる。</p>					
成績評価方法	<p>定期試験 60点以上 合格          定期試験:100%          授業への取組:±10%</p>					
テキスト・参考書	<p>教科書:藤本一司『愉しく生きる技法』(北樹出版)          参考書:内田樹『ためらいの倫理学』(角川文庫)          藤本一司『倫理学への助走』(北樹出版)</p>					
メッセージ	<p>みなさんと楽しい時間を過ごしたいと思っています。</p>					
授 業 内 容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
<p>夢と現実のあいだ(2)          外見は侮れない(2)          型を使いこなす(1)          未来も過去も「今・ここ」に(2)</p>			<p>正反対のものに同時に触れる力の大切さを理解できる。          不都合は意識しにくく外見に露出することを理解できる。          自分を守るための型というものを理解できる。          自分を動かすための「時間」のとらえ方を理解できる。</p>			
前期中間試験			実施しない			
<p>加害者?被害者?(2)          私はいつもすでに決断している(2)          無知の知を知る(2)          考えることを考える(2)</p>			<p>被害者の位置を先取すると、成熟しにくいことを理解できる。          平凡な日常のルーティーンの大切さを理解できる。          「わからないことをわかる」という位置を理解できる。          「考える」の次数を上げることを理解できる。</p>			
前期期末試験			実施する			
<p>私の当然さはどのように誕生してきたか(2)          限界を知って、未来を拓く(2)          未知性を愉しむ(1)          私の外部に耳をすます(2)</p>			<p>自分の当然さを振り回すことの危うさを理解できる。          限界を知ることは、自由獲得の条件であることを理解できる。          決着をつけると見失うものがあることを理解できる。          うぬぼれは自滅の条件であることを理解できる。</p>			
後期中間試験			実施しない			
<p>身体に敬意を払う(2)          物語が現実をつくる(2)          交換は楽しい(2)          つながりを生きる(2)</p>			<p>身体は「わかっている」ということの意味を理解できる。          「思い込み」の危うさとよこびを理解できる。          「もらう」ためには「あげる」、ということを理解できる。          もらったものを感じることができる力の意味を理解できる。</p>			
後期期末試験			実施する			